平成２６年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	岡山県

Ⅰ　概要

１　モデル地域の概要

①モデル地域の種類　※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

○	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

※各学校ごとに別紙１「学校等の概要」を別途記入してください。

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
岡山県	高等学校	岡山県立倉敷鷲羽高等学校（おかやまけんりつくらしきわしゅうこうとうがっこう）
岡山県	特別支援学校	岡山県立倉敷琴浦高等支援学校（おかやまけんりつくらしきことうらこうとうしえんがっこう）

２　研究課題

生徒の自己理解を深め、関係機関と連携した進路指導の充実に関する研究

３　研究の概要

障害のある生徒への就労支援に関する取り組みは、特別支援学校において蓄積されている。特に、関係機関との連携を図ることや、現場実習等で実際の場面で働くことを通して、意欲を育て就労につなげてきた。また、本県では一人一人のニーズや特性に応じた就労を目指すために職場開拓や現場実習先を探すことを中心になって行う人員を配置し、就労への取り組みに成果をあげてきた。

高等学校においては､発達障害のある生徒に対して就労支援の取り組みを行う必要であるが、何が必要なのか十分に行われていないのが現状である。そこで、今回は、就労するためには、自己理解が大切であること、関係機関との連携が必要であるとの仮説に立つ。そこで、今まで行われてきた特別支援学校での就労支援の蓄積を、高等学校に在籍する発達障害のある生徒にどのように活用できるかを考察し、自立と社会参加を推進していくことを目的とする。

研究内容として、特別支援学校においては、就労支援の取り組みの中で、どういう力が必要であるかを整理する。そしてその授業や現場実習等を高等学校に公開する。高等学校においては、個別の教育支援計画を作成し、特別支援学校の就労支援の取り組みを活用し、一人一人のニーズと特性に応じた就労支援を行う。さらに、高等学校においても授業を公開し、特別支援教育の観点を取り入れた授業改善を行う。また、障害のある生徒の就職先を開拓することが非常に重要であることから就労支援コーディネーターを配置する。これらの取り組みを通じて高等学校段階における生徒へのキャリア教育を推進していく。

４　研究の成果

○就労支援ネットワーク会議

倉敷琴浦高等支援学校と倉敷鷲羽高等学校の連絡・調整だけでなく、幅広く意見を求めたり、方向性の確認をしたりするために、大学教授、就労支援機関や企業の方々にメンバーに入っていただき、会議を開催した。毎回、取組の方向性の確認や新たな知見をいただくことができた。

○進路開拓の実際　就労支援コーディネーター訪問等事業数

◇倉敷鷲羽高等学校関連

・行政機関・企業等　５９ 社／機関　・企業との電話調整　９１回

◇倉敷琴浦高等支援学校関連

・行政機関等　６１ 社/機関　・企業等 ８０社（うち開拓企業 ４５社）

・見学案内　９社　・企業との電話調整　４６０回

○両校の取組

◇倉敷鷲羽高等学校関連

・　就労に向けた校内支援体制の構築については、障害者　枠での就労希望者に対して、早めに面接を行いながら支援体制を整えてきている。

・　本人を支えるネットワーク作りでは、ハローワークや支援センターと連携が取れる関係が作れ、マップの作成ができた。

・　特別支援学校の視点を取り入れた授業を行うことができた。

・　就労支援コーディネーターの配置で、障害者枠での就労についての知識が持てた。

◇倉敷琴浦高等支援学校関連

・　現場実習事前・事後学習の工夫では、実習場所や実習期間を含め、再検討をしながら取り組んでいる。また、実習日誌や振り返りシートの改正をすすめてきている。

・　キャリア教育の推進では、キャリア教育の視点（特に自己理解）を取り入れた授業実践を行い、公開授業研究会を行った。

・　就労支援コーディネーターの配置により、企業の情報が多く入り、職場開拓も進んだ。また、他機関（ハローワークや就労支援センターなど）との連携が強まり、進路指導が進んだ。○研修

・　特別支援学校の学校公開に高等学校の教師が７名来校し、授業参観を行った。また、高等学校の授業公開日に高等支援学校から4名が参加した。

・　両校で生徒の交流及び共同学習を行い、お互いの授業の中で得意なところを教え合い、学び合った。そのことで生徒の自己理解を深めることができた。

・大学教授等による講演会を実施した。（５回）

◇倉敷琴浦高等支援学校

平成26年７月28日（月）、11月27日(木)、平成27年1月30日（金）、２月13日（金）

◇倉敷鷲羽高等学校

平成26年12月２日(水)

○成果発表会

平成27年３月５日（木）に、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校などに案内を出し、２校の取組の成果を発表した。

5　課題と今後の方策

岡山県立倉敷鷲羽高等学校では、課題として障害の診断がない生徒に対する指導や支援体制の構築である。また、教師の発達障害に対する専門知識の向上と、発達障害を意識した「集中できる」または「わかりやすい」授業の実践をいかに行っていくか、などがあげられた。今後の方策として、障害や気になる特異な行動に気付いた時点で、中学生活まで振り返り、中学校からの引き継ぎを確実に行い、できるだけ早期から自己理解・自己分析を促す取組を行う。そして、授業や学校生活の中で、学業だけでなく生活全般を含めて「できること」「できないこと」などを考え、自覚できるように促す取組を行う。そして、本人が困らないためのネットワーク作りを行うことが大切であると考える。次いで、実態把握や視覚支援を始めとする特別支援教育の視点を高等学校教育に研修を通して更に導入し、授業を構成する必要性がある。

岡山県立倉敷琴浦高等支援学校では、課題として、自己理解を深める取組の充実と、授業の実践力の向上があげられた。今後の方策としては、体験を通した振り返りを通して、具体的な自己理解を重ねていく。そのためにも現場実習日誌や報告書、振り返りシートなどの項目の検討や取り組み方の検討による更なる改善と、日頃の授業全般を通して、キャリア教育の自己理解を促す視点を考慮した取組の促進が必要とされる。

最後に、両校を通した方針として、就労支援のネットワーク作りと職場開拓の充実をはかることが重要であると考えられる。